内水氾濫

内水氾濫とは

市街地などに短時間で局地的な大雨が降ると、下水道や排水路が水をさばききれなくなり、溢れだした雨水が建物や土地、道路などを水浸しにする。これが内水氾濫。近年、日本では大雨や短時間強雨(1 時間降水量 50mm、80mm 以上)の発生数が増加傾向にあるため、内水氾濫が発生する可能性が高くなっている。比較的、堤防の整備が進んだ都市部では、内水氾濫が新たな課題となっている。

内水氾濫の特徴

内水氾濫と河川氾濫を比較した場合の違い。

- ○　降雨から浸水被害が発生するまでの時間が短い。
- ○　河川から離れた地域でも浸水被害が発生する。
- ○　浸水深は浅いので、無理に屋外へ避難するよりも頑丈な建物の 2 階以上へ移動したほうが安全な場合が多い。
- ○　地下空間や周辺に比べて低い場所においては、局所的に浸水の危険度が高い。

発令基準

総合的に判断して発令するが、ゲリラ豪雨のような場合は、短時間で内水氾濫が発生する事から、基本的には、発令は間に合わない。また、移動することによりかえって危険が増す場合もあることから、基本的な避難方法は、垂直避難とする

避難の後、河川の氾濫による避難指示等を発令する場合は、水平避難に切り替える

発令名	その他の要素による判断基準
避難指示 【警戒レベル４】	１～３のいずれかに該当する場合に、警戒レベル４避難指示を発令することが考えられる。 1.　記録的短時間大雨情報が発令されている場合 2.　近隣の地区で床上浸水が発生 3.　１時間で 100 ㎜以上の降雨が予想される場合
高齢者等避難 【警戒レベル３】	１～４の 2 つ以上に該当する場合に、警戒レベル３高齢者避難を発令することが考えられる。 1.　大雨警報が発令されている　場合 2.　近隣の地区で床下浸水や道路冠水が発生し、被害が拡大している 3.　1 時間で 80 ㎜以上の降雨が予想される場合 4.　今後も大雨による降水量が見込まれる